

1. 評価結果概要表

作成日平成19年 11月9日

【評価実施概要】

事業所番号	3671500886
法人名	医療法人 近藤内科医院
事業所名	グループホーム はるかぜの里
所在地	徳島県板野郡板野町那東字野神前10番地1 (電 話) 088-672-6020
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 11月 9日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤 7人,非常勤 8人,常勤換算 いきいき棟6人,ゆうゆう棟6人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費7,500円・その他実費	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 1,150 円			

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.8 歳	最低	53 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・近藤内科医院 ・ひろせ歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通量の多い県道に面して立地している。駐車場のフェンスに掛けられた数個のプランターにはパンジーが黄色の花を咲かせている。小さな菜園には苜やネギ等が植えられており、利用者、ボランティアにより水遣り等手入れがされている。1階、2階ともに内部は採光も良く、暖かで、職員も近くからの勤務者が多く、以前から馴染みの関係でもあり、利用者は安心した生活を送っている。また、様々なボランティア活動も活発に行われ地域との連携も十分に取られている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目であった「権利・義務の明示」については契約書に明記され改善されている。また、「地域の人たちとの交流の促進」についても管理者がホーム近隣に出向き、暮らしぶりを説明したり、利用者が図書館を利用するなどして、交流の促進に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の目的と意義を全職員が理解し、管理者・職員が共に自己評価に取り組み、サービスの質の向上に繋げるよう努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、町福祉課職員、地域包括支援センター職員、地域住民、入居者、入居者家族で構成されている。会議録からは地域の協力的な申し出等が見られ、今後の効果が期待される。現在3ヶ月に1度の割合で開催されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には手紙や訪問時、家族会や運営推進会議等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるよう配慮している。出された意見や要望は前向きに受け止め、スタッフ会議で話し合っている。また、利用者の日頃の暮らしぶりやエピソード等は、写真を添えて家族に伝えている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育園児との交流、運動会や祭りへの参加等地域との連携はとれている。また、系列のデイサービス利用者とも相互に訪問し交流がなされている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を目指した理念を掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は共に理念の実践に取り組んでいる。日々のケアを振り返り、理念に添った支援が出来るか確認し、話し合いがもたれている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会やお祭りに参加し、また、近くの保育園児が定期的に遊びに来る等地元との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員全員が理解し、取り組んでいる。前回改善項目であった利用者の「権利・義務」は契約書に明記されていた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回開催されており、ホームの現状報告や参加者との意見交換がなされている。	○	2ヶ月に1回の開催が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者との事務的な連絡等は頻繁に行われているが、サービスの質の向上に向けての連携には取り組まれていない。	○	町役場に職員研修の場としてホームの利用等をすでに提案しており、早期の実現が期待される。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日頃の暮らしぶり、エピソード等を写真と共に毎月手紙で伝えている。金銭管理についても個々の出納帳に記載し、家族の確認を受けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の意見や相談・苦情等はホームにととの「室」との共通認識のもとで、常に気軽に言ってもらえるような雰囲気作りに配慮している。また、第三者苦情処理委員を外部の方にお願ひし、意見等をもらっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し、顔見知りや馴染みの関係を築いている。離職や異動がやむを得ない場合には利用者には十分説明し、ダメージを最小限にするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に実務者研修等受講している。また、資格取得の機会の確保にも努めている。伝達講習を行ない、内容を職員全員が共有できる仕組みになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し同業者と交流している。実務者研修の一環として職員交換の施設実習も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の安心と納得を一番に考え、利用者・家族に見学に来てもらっている。顔なじみの職員や利用者との関わりから、雰囲気馴染めるよう支援し、安定した生活ができることを見極めてもらってから利用に移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員で「そよかせ会議」を開催し、意見を出し合って行事や外出先を相談する等、支援する側とされる側にとらわれず、普段から入居者に教えてもらう、また、そのような場面を作り出す工夫がなされ、共に支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、利用者の思いの把握に努めている。「どこで、誰と、どのように暮らす」ことが最良なのか、常に意見を出し合って話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向や希望、職員・医師の意見等を通じて課題を把握し、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間は要介護認定期間と同じに設定している。毎月モニタリングを行いスタッフ会議では家族からの意見や要望はないか話し合っている。利用者の状態に変化があった場合にはその都度計画の見直しを行っている。	○	状態が安定している利用者の場合も、実情に即した、あるいは変化の兆しに予防的に対応していくため3ヶ月毎の介護計画の見直しをされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況に応じて通院や送迎等の必要な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は家族の同行となっているが、不可能な時には職員が代行しており、契約時にその旨を説明し、同意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合に、グループホームが対応し得る最大のケアについて、家族と担当医を交えての話し合いの場が持たれている。状態に変化が見られた時には家族に連絡し、家族の気持ちの変化や利用者の想いに注意をはらい支援をしている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇マナー等の勉強会や日々のミーティングの折に職員の意識向上を図り、利用者の誇りやプライバシーを損なわないような取り組みがされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、時間を区切った過ごし方ではなく、その時の一人ひとりの状態や思いに配慮しながら買い物や散歩等柔軟な対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で育てたトマト、苺、ネギ等が食卓を飾っている。食事の準備は職員が行っているが、後かたづけには利用者も参加している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日、希望の時間に入浴できるようにしている。仲の良い方同士は一緒に入るなど楽しんでいる。入浴を嫌がる利用者には声をかけるときに工夫したり、入浴剤を使用するなどして気持ちに変化をもたらすような支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な分野で力を発揮してもらえるような場面を作っている。音楽療法の講師にピアノを指導してもらっている利用者が立場を変え書道を教えるなど、得意な事を活かした役割が職員の支援のもとにできている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブにでかけている。季節の変化を感じてもらえるように折々の花を見に行ったり、希望に添って外食に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームのすぐ前に交通量の多い県道があり、また、ホーム内からの見通しも悪く危険であるため、日中、玄関は施錠されている。利用時には、その旨を家族に説明し、了解を得ている。	○	鍵をかけない支援の方法を工夫し、利用者が安全で自由な暮らしが出来るよう配慮されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回訓練を実施している。緊急連絡網を整備し夜間の通報訓練や、消防署の協力を得て避難訓練・消火器訓練を行っている。また、運営推進会議で地域の方から意見が出されるなど協力体制が得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェック表に記録し、職員は情報を共有している。栄養バランスに配慮し定期的に母体医院の医師に助言をもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には季節の花があり、壁に地域の方が撮影した写真が飾られている。利用者の詠まれた俳句や、書も掲示されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒、ドレッサー、椅子等、また、家族の写真やぬいぐるみなどを置いた居室や、シンプルな居室など、利用者の意向に添って居心地の良いように工夫している。		